

企業メディア＝大衆騙しの究極の武器を暴く

Geoengineering Watch

October 10, 2014



主流企業メディアはウソと犯罪的騙しの巣であり、彼らの仕事は権力構造に奉仕することである。この組織の中にいる人々は、とうの昔に、彼らがかつて持っていたかもしれない名誉のかけらさえ売り飛ばしている。メディアが協力して隠そうとしてきた巨大な真実がひとたび明るみに出たとき、その瞞着に参加していた「ジャーナリスト」は、権力構造の計り知れない犯罪の共犯者として、裁かれてしかるべきである。次の記事と 2 本の短いビデオは、そうした事情をよくわからせてくれる。最初の（2 分間）ビデオは、主流メディアのホワイトハウス記者たちが、自分たちのマイクがライブであることに気づかない間に、起こったものである。次のビデオ（11 分）は、我々が是非とももっと知りたいと思う、主流の大衆騙しメディアのかつての一員が、メディアというものがいかに犯罪的に腐敗しているかを暴く、感動的な告白の内容である。——Dane Wiginton

ホワイトハウス記者 Major Garrett が、エボラについての政府ブリーフィングの後で、マイクがオンになっているのを知らずに「我々は騙されている」と言っている場面（ビデオ）

アメリカの主流メディアが、本当はどう考えている（しかし絶対に言わない）のかについて、少しばかり真相を知るよすがとして、CBC ニュースのホワイトハウス主任記者 Major Garrett と彼の 2 人の同僚が、政府のエボラ対策についての、ホワイトハウスの 10 月 3 日

記者ブリーフィングの後で、まだマイクがオンになっているのを明らかに忘れて、話している内容に注目していただきたい。

通常は、この種の問題を報道する人々の間では、その内容は彼らだけの秘密になっている。ところが今日、ギャレット氏の本当の感情が、マイクを切らない状態で、彼の同僚ジャーナリストに話すという形で明るみに出た。

ビデオを見ると、女性記者がギャレットに歩み寄り、自分の考えでは「最も面白いのは渡航禁止の話だ」と言い、これは明らかに、エボラを輸出する国家からの渡航に政府が制限を課していないことを言っている。ギャレット氏はこれに応じて、簡単に「そうだ、我々は騙されている」(we're screwed)と言っている。この女性は次に、最近ナイジェリアに行ってきたもう一人の血液テストの結果が気になる、というようなことを言っている。彼は「どうも風邪を引いたような感じだが、君らにキスさせてくれ」と冗談を言っている。ギャレットは、「もし血液テスト (DC test) が陽性と出たら、この週末は電話質問でいくぞ」と答えている。

このビデオから、これら主流メディアの記者たちも明らかに、我々と同じように、政府の発表を信じていないことがわかる。にもかかわらず彼らは、プライムタイムのテレビで、政府が我々に聞かせようと思っていることを正確に、毎晩毎晩、全国民に放送しているのである。これは実はすべて猿芝居であり、このクリップはより明らかな一つの証拠にすぎない――

<http://www.youtube.com/watch?v=ju-xqofwBv8>

独ジャーナリスト：ヨーロッパのメディアは、CIAの圧力の下でアメリカのための物語を書いている（ビデオ）

RT、October 18, 2014

ドイツのジャーナリストで編集者の Udo Ulfkotte は、米情報局の仕事を、彼自身の名を用いて発表するように強要されていたと言い、それに応じなければ解雇の危険を冒すことになったと付け加えている。ウルフコッテはこの真相暴露を、RT とロシア・インサイダーとのインタビューで行った。

「私は結局、CIA や他の情報機関、特にドイツの秘密機関の工作員の書いた記事を、私自身の名で発表していました」とウルフコッテは、ロシア・インサイダーに話した。彼は同じよ

うな告白を、10月初めの独占インタビューで、RTに対しても行っている。

「ある日、BND（ドイツ外国情報局）が、フランクフルトにあるフランクフルター・アルゲマイネ紙の私の事務所にやってきました。彼らは、リビアとカダフィ大佐についての記事を私に書いてほしいと言いました。…彼らは、これについてすべての秘密情報を私に与えた上で、その記事に私の名を署名するよう求めました」と、ウルフコッテはRTに語った。

「その記事は、いかにカダフィ大佐が秘密に毒ガス工場を建設しようとしたか、という内容でした。それは2日後に、世界中で印刷された物語になりました。」

ウルフコッテは、このことやもっと多くのことを、著書『買収されたジャーナリスト』で暴露し、自分が過去にやったことを恥じていると述べている。

「私が過去にやったことは間違っていました。それは人々を操り、プロパガンダを行うことでした。そして私の同僚たちが、現在も行い、過去において行ってきたことも正しくありません。なぜなら彼らは賄賂をもらって、単にドイツ人だけでなく、ヨーロッパ中の人々を裏切っているからです」と、彼はRTに語った。「私はジャーナリストを25年やってきましたが、その間、私はウソをつき、裏切り、一般大衆に真実を語らないように教えられました。」

<http://www.youtube.com/watch?v=sGqi-k213eE>

「私はアメリカ人によって買収され、真実を正確に報道しないように教育されました。…私はドイツのマーシャル米基金によって招かれて、アメリカへ渡りました。彼らは私のすべての経費を払ってくれ、彼らが私に会ってほしいというアメリカ人たちに引き合わせました」と彼は言った。

「私は米オクラホマ州の名誉市民になりましたが、これは私がアメリカのために物を書いたからです。私はCIAの支持を受けていました。私はいくつかの状況で彼らを助けましたが、今それを恥じる気持ちもあります。」

他にも多くのジャーナリストが利用されて同じことをやっている、とウルフコッテは付け加えた。

「外国で見かけるジャーナリストのほとんどは、自分をジャーナリストだと言い、そうであるかもしれませんが。しかし彼らの多くは、かつての私のように、いわゆる“非公式カバー”なのです。それは、あなたが情報局のために働き、彼らから要請があれば彼らを助けるとい

うことを意味します。しかし彼らは決してあなたを知っているとは言いません。」

そのような仕事のために選ばれたジャーナリストは、通常、大きなメディア組織から来ている。秘密機関との関係は一つの友情として始まる。

「彼らはあなたのエゴに働きかけてきて、あなたが重要人物であるかのように思わせようとしませう。そしてある日、彼らの一人が、“こういうことをやって頂けないだろうか？”と持ちかけてくるのです」と、ウルフコッテは説明した。

彼は最後に、この本のために自分は迫害され収容所で一生を終えるかもしれないが、自分には子供もなく、心臓発作も何回か起こっていて死ぬのは厭わない、自分が真理を世界に知らせることは十分それに値する、と悲壮な決意を語っている。